

## 第2章

# 高齢者等の現状と将来推計

- 1 高齢者の現状と動向
- 2 要介護(要支援)認定者の推移と将来推計
- 3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果からみた高齢者等の現状
- 4 認知症日常生活自立度の現状

# 1 高齢者の現状と動向

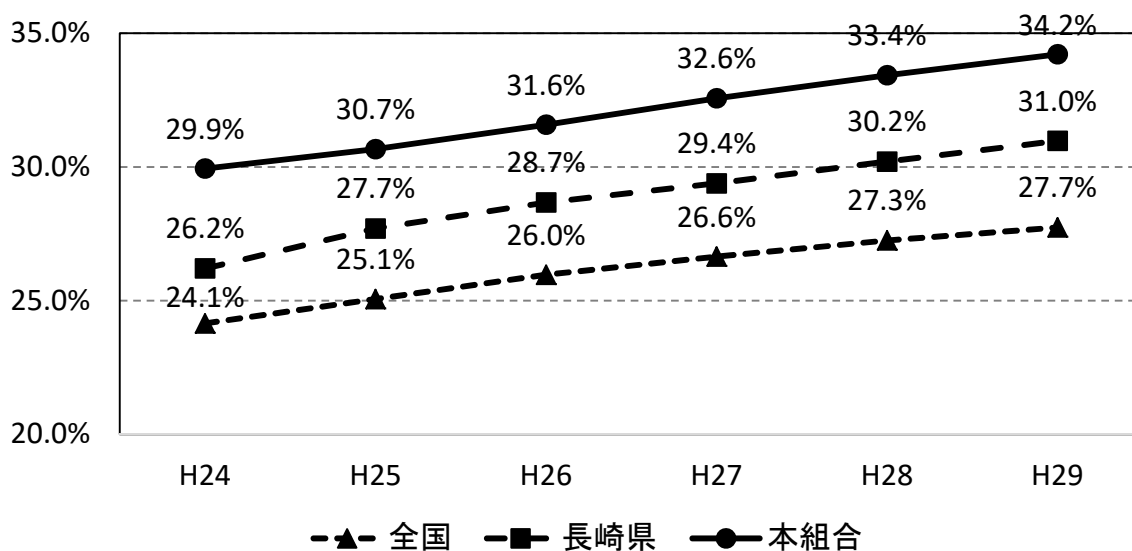
## (1) 本計画の人口推計等

本組合における平成29年9月末現在の高齢者人口は47,187人で、高齢化率は34.2%となっています。全国が27.7%、長崎県が31.0%であるのに対して、高い傾向にあります。

高齢者人口の推計については、住民基本台帳人口（平成27年度～平成29年度）をもとに、男女別及び年齢別にコーホート要因法（一部に合計特殊出生率など使用）を参考に推計します。

平成29年度と平成37年度を比較すると、高齢者数は290人の減少、高齢化率は4.4ポイント増の38.6%になると予想しています。

### ■ 高齢化率の国県比較



※各年9月末の住民基本台帳

■本計画における高齢者人口の推計

(単位：人)

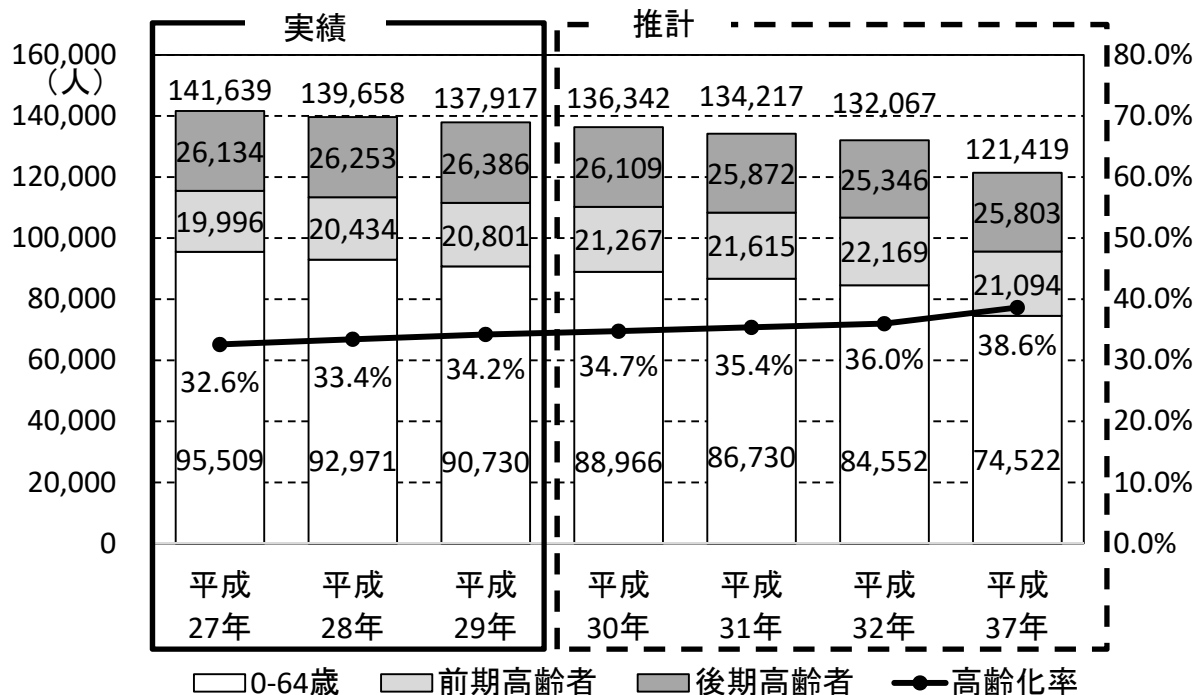
区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
総人口(A)	141,938	141,639	139,926	139,658	137,863	137,917
高齢者人口(B) 65 歳以上	45,890	46,130	46,238	46,687	46,541	47,187
前期高齢者 65-74 歳	19,913	19,996	20,245	20,434	20,652	20,801
後期高齢者 75 歳以上	25,977	26,134	25,993	26,253	25,889	26,386
高齢化率(B/A)	32.3%	32.6%	33.0%	33.4%	33.8%	34.2%

※各年 9 月末の住民基本台帳

(単位：人)

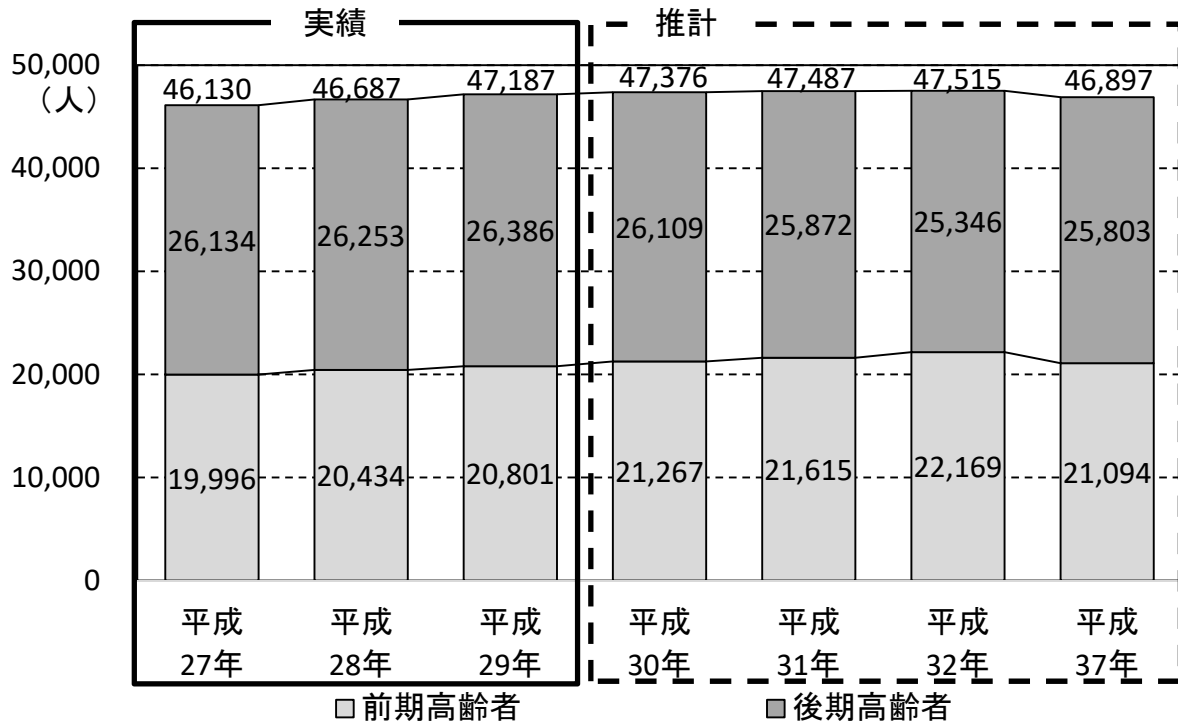
区分	平成 30 年 推計	平成 31 年 推計	平成 32 年 推計	平成 37 年 推計
総人口(A)	136,342	134,217	132,067	121,419
高齢者人口(B) 65 歳以上	47,376	47,487	47,515	46,897
前期高齢者 65-74 歳	21,267	21,615	22,169	21,094
後期高齢者 75 歳以上	26,109	25,872	25,346	25,803
高齢化率(B/A)	34.7%	35.4%	36.0%	38.6%
0-64 歳人口	88,966	86,730	84,552	74,522

■本計画における高齢化率の推計

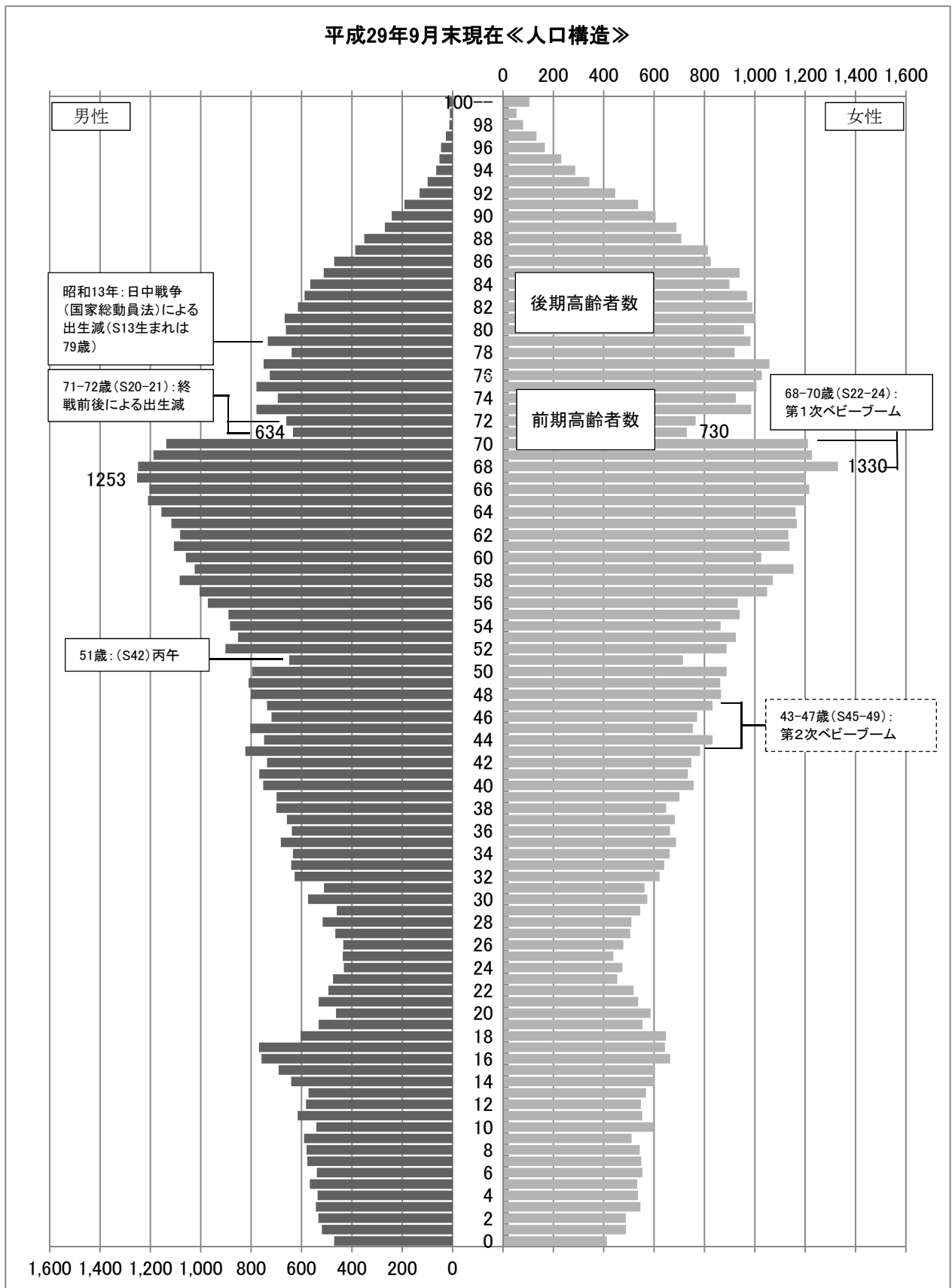


※平成29年度までは各年9月末の住民基本台帳

■本計画における前期高齢者及び後期高齢者の推計



■本組合における人口ピラミッド



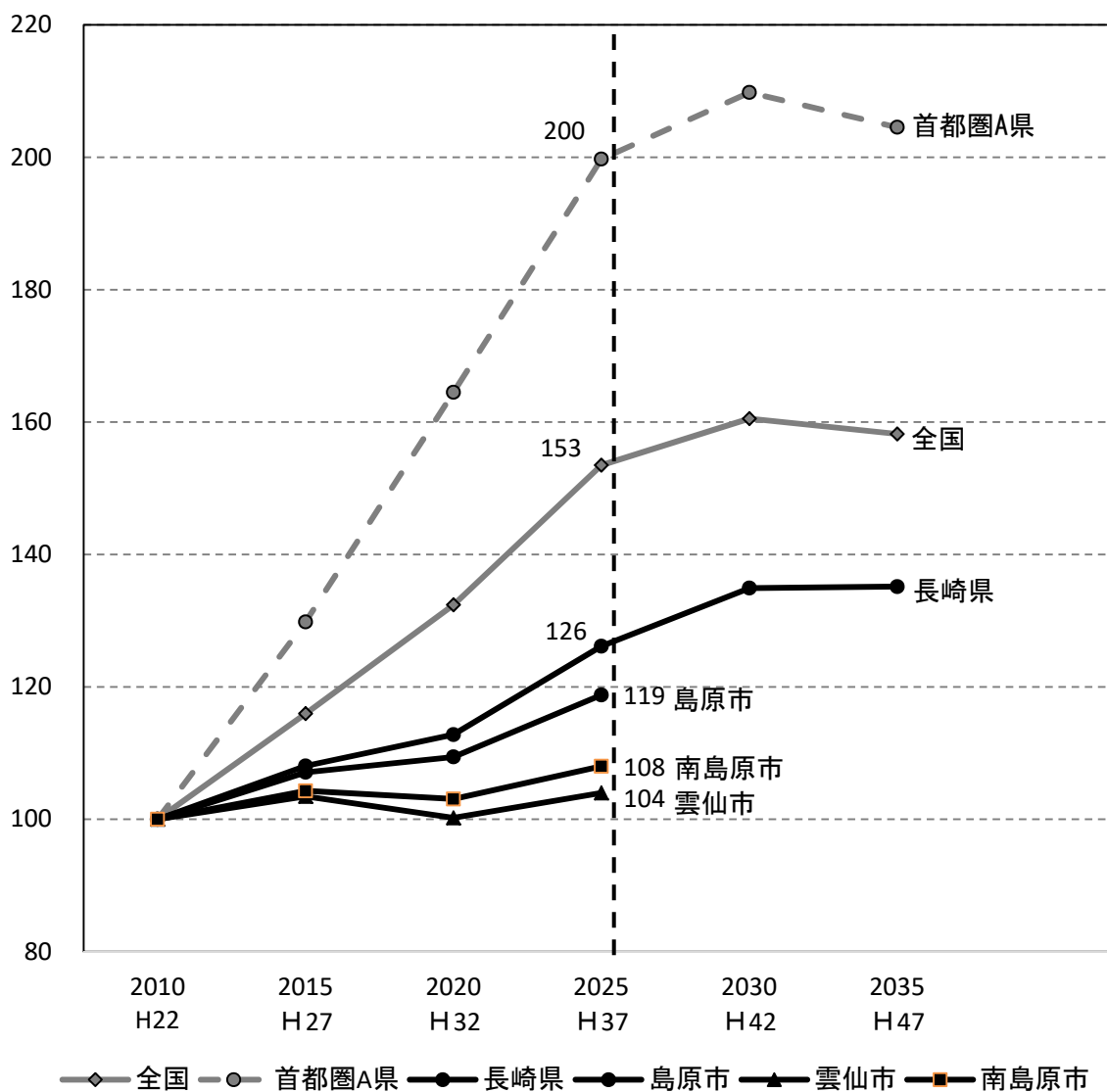
## (2) 団塊の世代

団塊の世代（昭和22年生～昭和24年生）が、平成37（2025年）年までに後期高齢者（75歳以上）となることにより、介護・医療費など社会保障費の急増が懸念されることを、「2025年問題」といわれています。

ただし、今後、急速に高齢化が進むと見込まれているのは、首都圏をはじめとする「都市部」であり、平成25年3月に発表された国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、平成22年度を100としたときの平成37（2025年）年との比較では、全国平均は153、首都圏のある県（首都圏A県）は200となっているのに対して、長崎県は126となっています。

また、本組合の将来人口推計においては、構成市のいずれもが、長崎県の平均を下回っています。都市部と地方では、地域の事情が異なっていることを考慮する必要があります。

### ■後期高齢者（75歳以上人口）の将来推計（平成22年度を100）

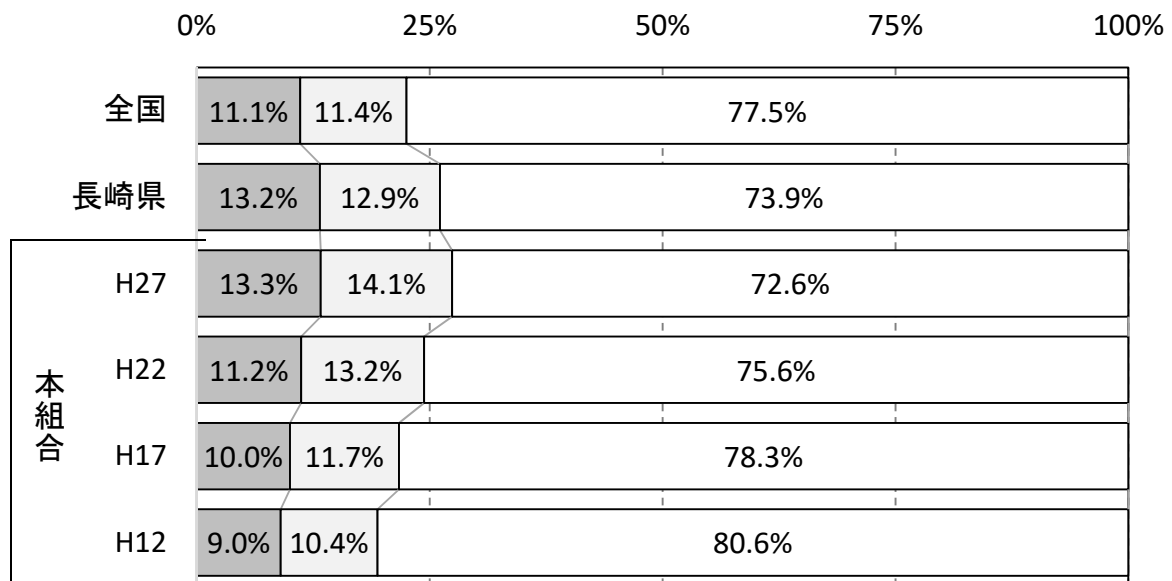


※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」から

### (3) 世帯の状況

高齢者のいる世帯は、高齢者単身世帯及び高齢者夫婦世帯とも増加をしています。  
 また、全国及び長崎県と比較しても、若干、高い比率を示しています。平成27年国勢調査では、高齢者だけでお住いの世帯が27.4%となっています。

#### ■ 高齢者のいる世帯の状況



高齢者  
 単身世帯

高齢者  
 夫婦世帯

その他

※資料：各年国勢調査（構成3市の合計）

## 2 要介護(要支援)認定者の推移と将来推計

介護認定者も高齢者人口と同様に、平成 37（2025）年度までを推計します。

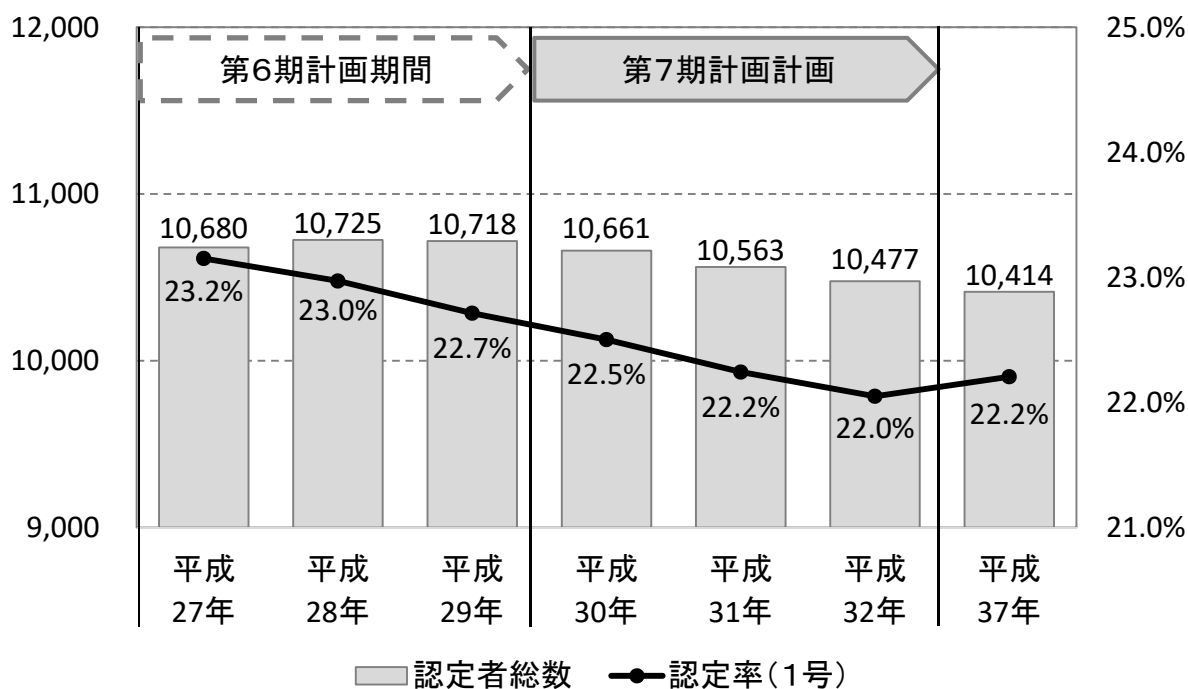
この推計に当たっては、国から提供される地域包括ケア「見える化」システムを活用するほか、第6期計画期間での実績等を踏まえて推計します。

平成 29年度の要介護（要支援）認定者数は 10,718 人で、前年度から若干減少傾向にあるため、今後も減少すると見込んでいます。

本計画の最終年度となる平成 32年度の認定者数は 10,477 人、認定率は 22.0%になると予想しています。

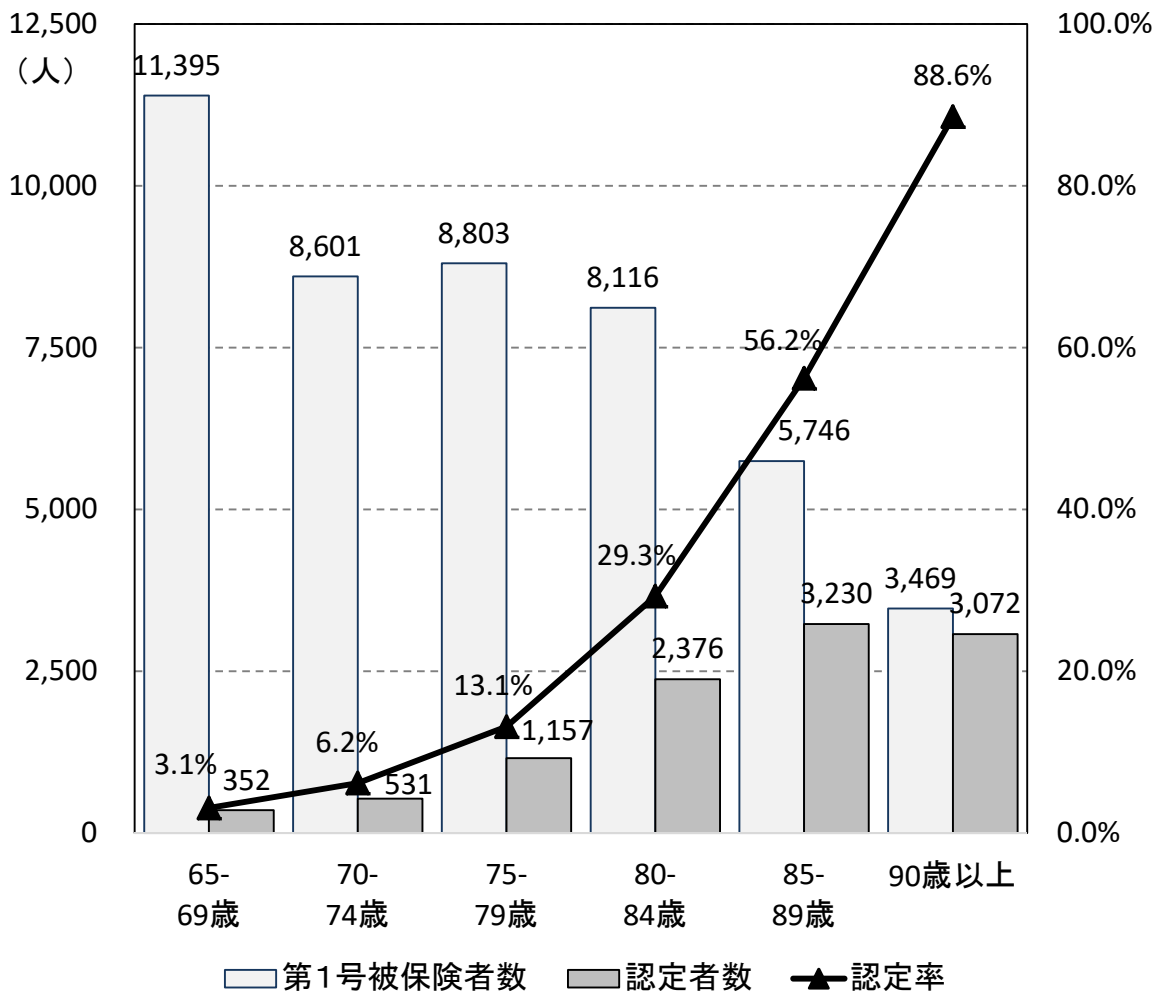
また、平成 37 年度の認定者も第 7 期の平均値は維持するものとし、平均値の 22.2%を想定しています。

### ■要介護（要支援）認定者数の推計（第1号被保険者のみ）





■年齢別認定者数と認定率（平成29年9月末現在）



### 3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果からみた高齢者等の現状

#### (1) 調査の実施方法と回収状況

##### ■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

区 分	配布数	回収数（回収率）
要支援1	252	188（74.6%）
要支援2	348	256（73.6%）
一般高齢者	2,400	1,680（70.0%）
その他（使用不可分）		7
合 計	3,000	2,131（71.0%）

※ 調査票の配布者については、構成市に在住の要支援認定者及び一般高齢者の中から無作為に抽出し郵送にて配布しました。

##### ■ 在宅介護実態調査

区 分	回収数
島原市	225
雲仙市	206
南島原市	219
合 計	650

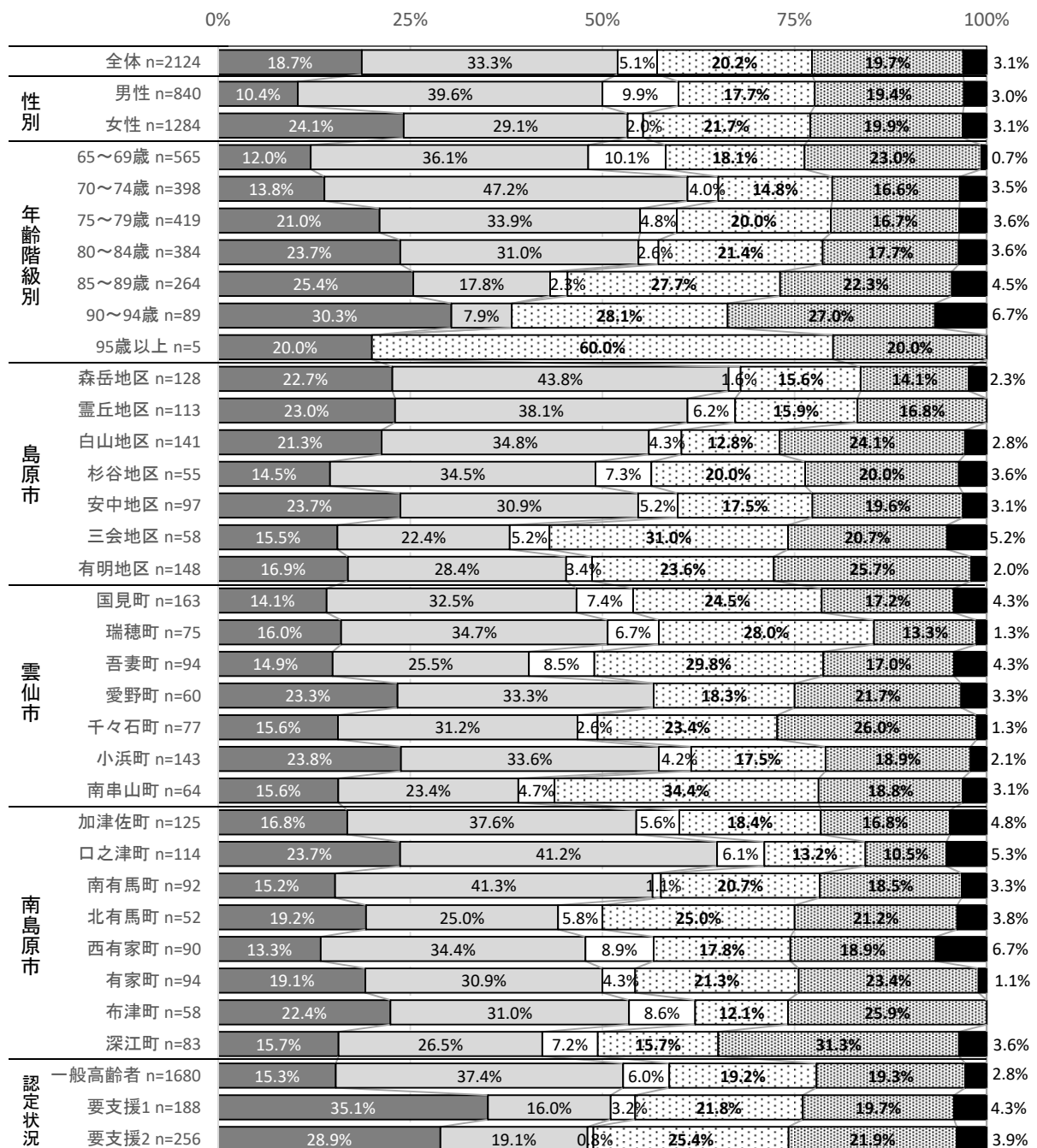
※ 在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている方のうち、「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をされた方に対し調査員が訪問調査をして回収しました。

## (2) 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

### ■ 家族構成

「1人暮らし」について性別でみると、男性が10.4%に対し、女性では24.1%となっています。年齢階級別でみると、年齢が高くなるにつれて「1人暮らし」の割合が高くなる一方で、「夫婦2人暮らし」の割合が下がっています。認定状況でみると、「一般高齢者」に比べ「要支援」認定者は「1人暮らし」の割合が高くなっています。

単位:nは人

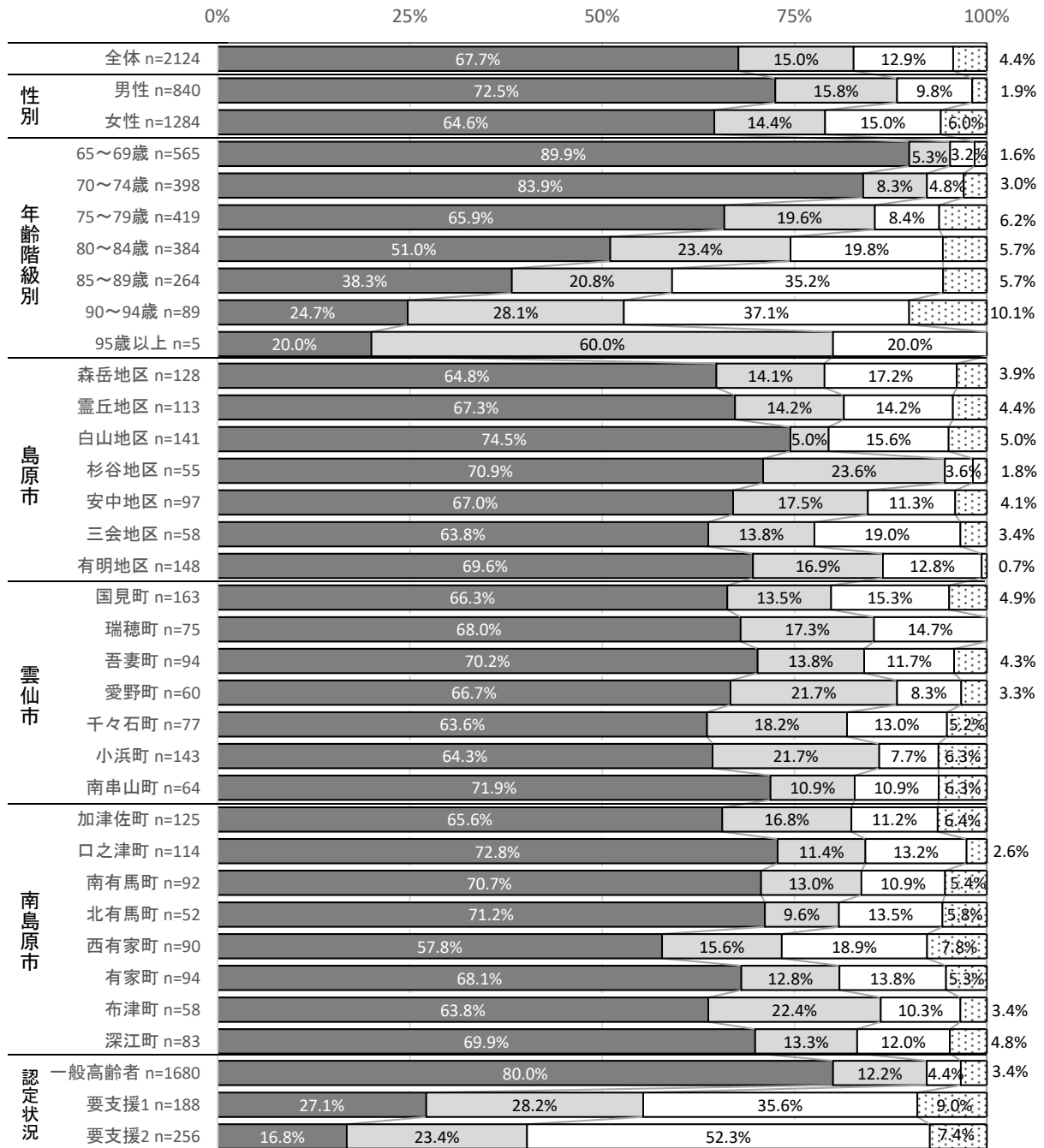


- 1人暮らし
- 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 息子・娘との2世帯
- その他
- 無回答

## ■ 介護・介助の必要性

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに介護・介助の必要性が高くなる傾向にあります。日常生活圏域でみると、南島原市西有家町のみ、「介護・介助は必要ない」が6割を下回っています。認定状況でみると、要支援認定者は介護・介助の必要性が高くなっています。

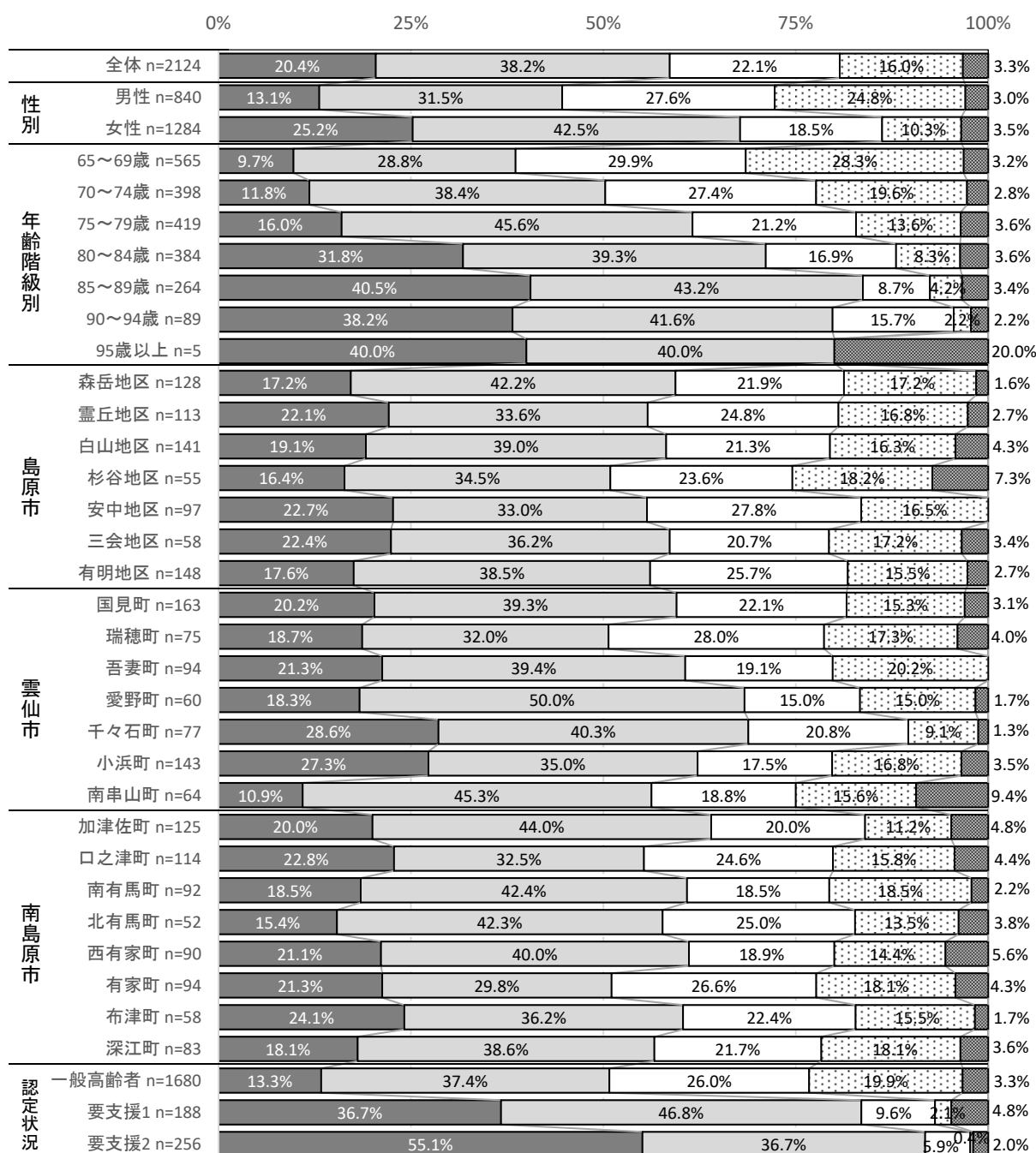
単位:nは人



- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)
- 無回答

## ■ 転倒に対する不安

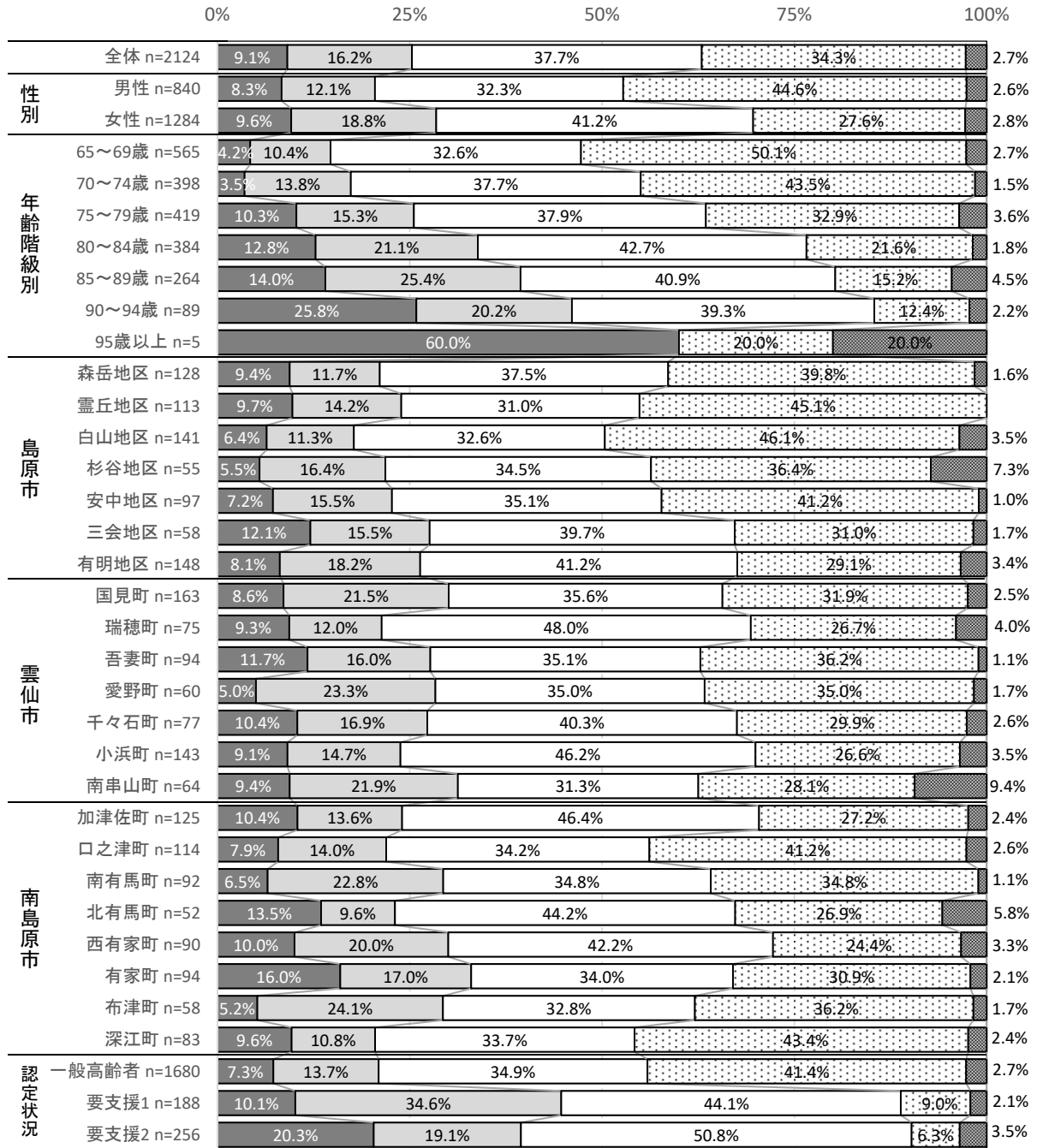
全体でみると、「とても不安である」と「やや不安である」の合計が58.6%と転倒に対する不安がある方が半分以上を占めています。性別でみると、男性は、「とても不安である」と「やや不安である」の合計が44.6%であるのに対して、女性では「とても不安である」と「やや不安である」の合計が67.7%であり、女性は男性に比べて転倒に対する不安があることがわかります。認定状況でみると、要支援2では「とても不安である」と「やや不安である」の合計が91.8%となっています。



■とても不安である □やや不安である □あまり不安でない □不安でない ■無回答

## ■ 外出の回数

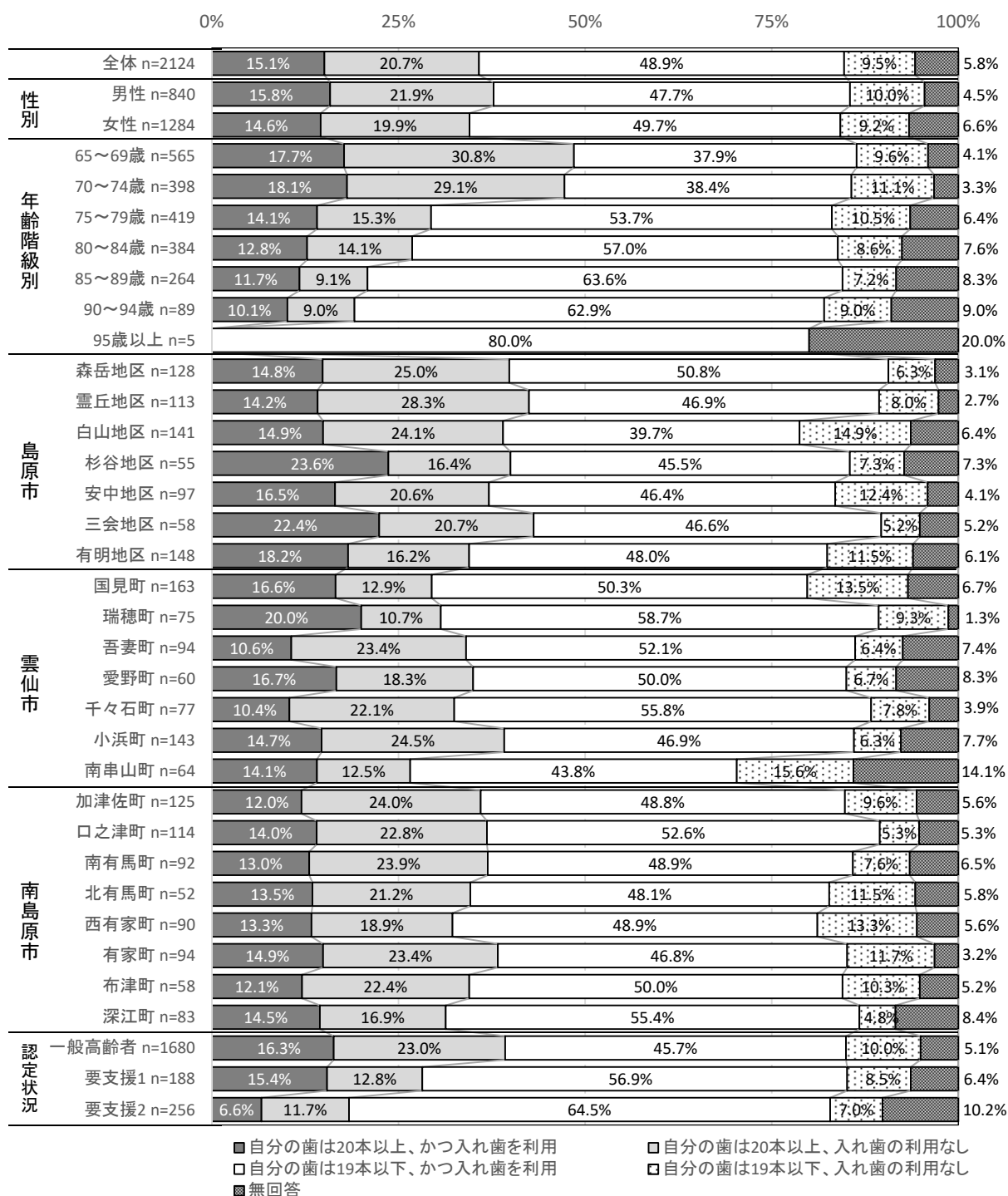
年齢階級別の95歳以上を除く各区分において「週2~4回」と「週5回以上」の合計が50%以上を占めています。日常生活圏域でみると、南島原市有家町において、「ほとんど外出しない」は16.0%となっており、他の地区と比べて高い割合になっています。



■ほとんど外出しない □週1回 □週2~4回 □週5回以上 ■無回答

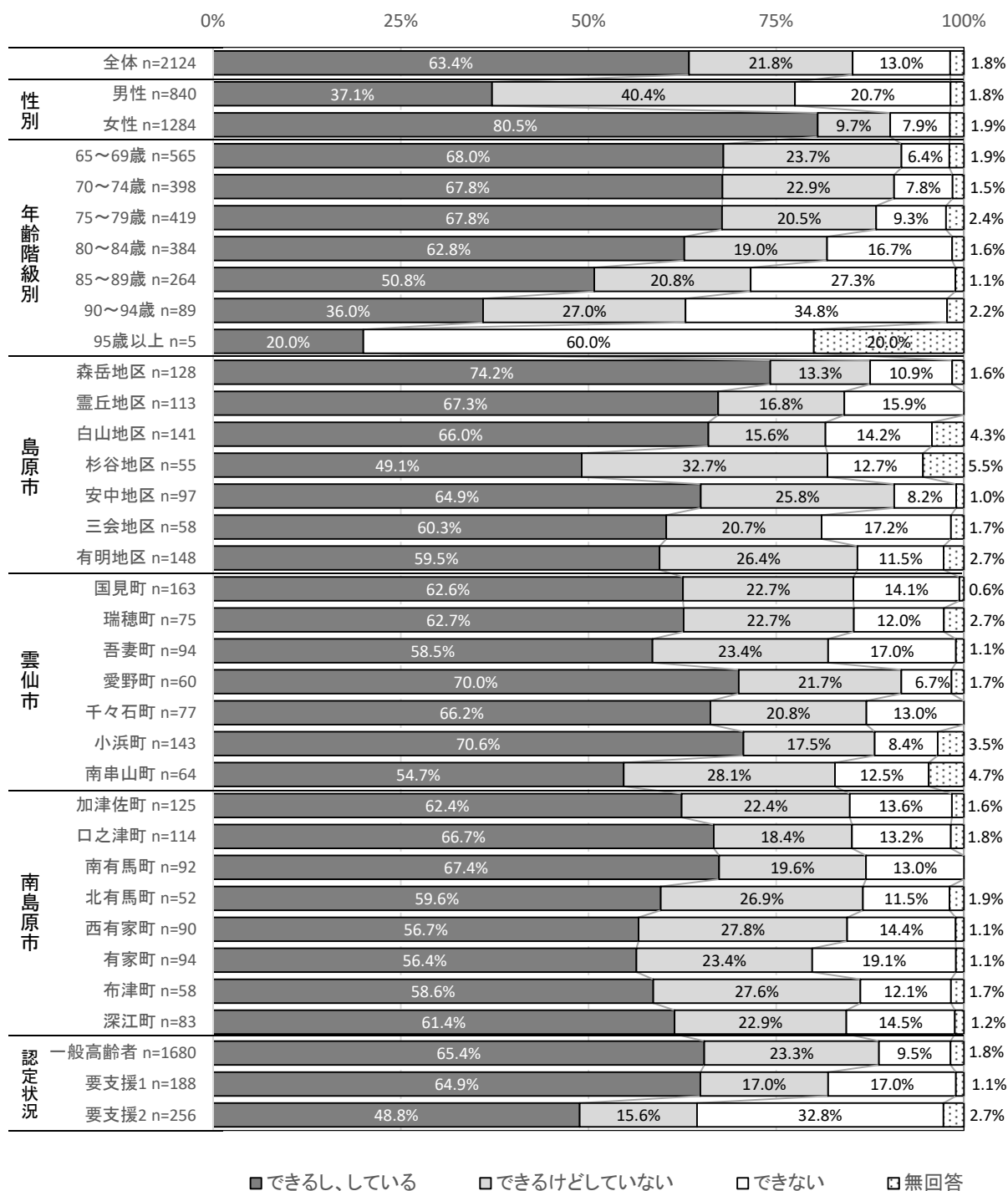
## ■ 歯の数と入れ歯の利用状況

各区分において、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も多くなっています。年齢階級別でみると、年齢が上がるにつれて、「自分の歯が20本以上」の割合が減少しています。認定状況でみると、要支援の方は一般高齢者に比べ、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高くなっています。



## ■ 自分で食事の用意

性別でみると、女性は「できるし、している」が80.5%と割合が高く、「できるけど、していない」の9.7%を合わせると90.2%と9割を超えています。日常生活圏域でみると、島原市の杉谷地区のみ、「できるし、している」が49.1%と5割を下回っています。認定状況でみると、要支援1では「できるし、している」が64.9%に対し、要支援2では48.8%と低くなっています。





## ■ 趣味関係のグループへの参加頻度

性別でみると、女性より男性の方が参加割合は高くなっています。年齢階級別でみると前期高齢者以上の年齢が上がるにつれ割合が減少しています。認定状況でみると、要支援の方は一般高齢者に比べ割合が減少しています。

区分	n	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	〔参加割合〕	
全体	2,124	1.8%	3.1%	3.1%	7.2%	4.1%	51.2%	29.5%	19.3%	
男性	840	1.4%	3.1%	2.0%	6.3%	7.5%	54.0%	25.6%	20.4%	
女性	1,284	2.1%	3.1%	3.7%	7.8%	1.9%	49.4%	32.0%	18.6%	
年齢階級別	65～69歳	565	1.8%	3.4%	3.7%	8.5%	5.7%	58.2%	18.8%	23.0%
	70～74歳	398	2.0%	4.0%	4.0%	10.3%	5.0%	47.5%	27.1%	25.4%
	75～79歳	419	2.4%	2.6%	3.6%	7.6%	3.3%	47.0%	33.4%	19.6%
	80～84歳	384	1.8%	3.4%	1.8%	4.2%	2.3%	46.6%	39.8%	13.5%
	85～89歳	264	0.4%	2.3%	2.3%	4.5%	3.0%	53.4%	34.1%	12.5%
	90～94歳	89	3.4%	1.1%	0.0%	4.5%	4.5%	56.2%	30.3%	13.5%
	95歳以上	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%
島原市	森岳地区	128	1.6%	6.3%	1.6%	13.3%	2.3%	51.6%	23.4%	25.0%
	霊丘地区	113	2.7%	2.7%	2.7%	8.0%	6.2%	53.1%	24.8%	22.1%
	白山地区	141	2.1%	5.7%	5.0%	7.1%	2.8%	48.2%	29.1%	22.7%
	杉谷地区	55	3.6%	3.6%	5.5%	5.5%	1.8%	52.7%	27.3%	20.0%
	安中地区	97	3.1%	3.1%	4.1%	8.2%	2.1%	53.6%	25.8%	20.6%
	三会地区	58	1.7%	1.7%	6.9%	6.9%	5.2%	55.2%	22.4%	22.4%
	有明地区	148	2.0%	3.4%	2.7%	3.4%	4.7%	50.7%	33.1%	16.2%
雲仙市	国見町	163	1.8%	1.2%	1.8%	5.5%	2.5%	55.2%	31.9%	12.9%
	瑞穂町	75	0.0%	2.7%	4.0%	2.7%	2.7%	57.3%	30.7%	12.0%
	吾妻町	94	3.2%	1.1%	4.3%	8.5%	3.2%	46.8%	33.0%	20.2%
	愛野町	60	0.0%	3.3%	0.0%	15.0%	3.3%	38.3%	40.0%	21.7%
	千々石町	77	0.0%	6.5%	2.6%	5.2%	1.3%	53.2%	31.2%	15.6%
	小浜町	143	2.1%	1.4%	2.1%	7.0%	4.2%	51.0%	32.2%	16.8%
	南串山町	64	1.6%	7.8%	4.7%	6.3%	3.1%	35.9%	40.6%	23.4%
南島原市	加津佐町	125	0.8%	3.2%	1.6%	9.6%	2.4%	55.2%	27.2%	17.6%
	口之津町	114	3.5%	1.8%	3.5%	9.6%	5.3%	50.9%	25.4%	23.7%
	南有馬町	92	2.2%	3.3%	5.4%	10.9%	4.3%	47.8%	26.1%	26.1%
	北有馬町	52	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	11.5%	48.1%	36.5%	15.4%
	西有家町	90	0.0%	2.2%	1.1%	5.6%	6.7%	54.4%	30.0%	15.6%
	有家町	94	2.1%	2.1%	4.3%	6.4%	7.4%	45.7%	31.9%	22.3%
	布津町	58	1.7%	3.4%	5.2%	0.0%	8.6%	48.3%	32.8%	19.0%
	深江町	83	2.4%	2.4%	1.2%	6.0%	3.6%	63.9%	20.5%	15.7%
認定状況	一般高齢者	1,680	2.1%	3.6%	3.6%	8.3%	4.7%	49.5%	28.3%	22.2%
	要支援1	188	1.1%	1.6%	1.1%	4.3%	3.7%	51.6%	36.7%	11.7%
	要支援2	256	0.8%	1.2%	1.2%	2.3%	0.4%	62.1%	32.0%	5.9%

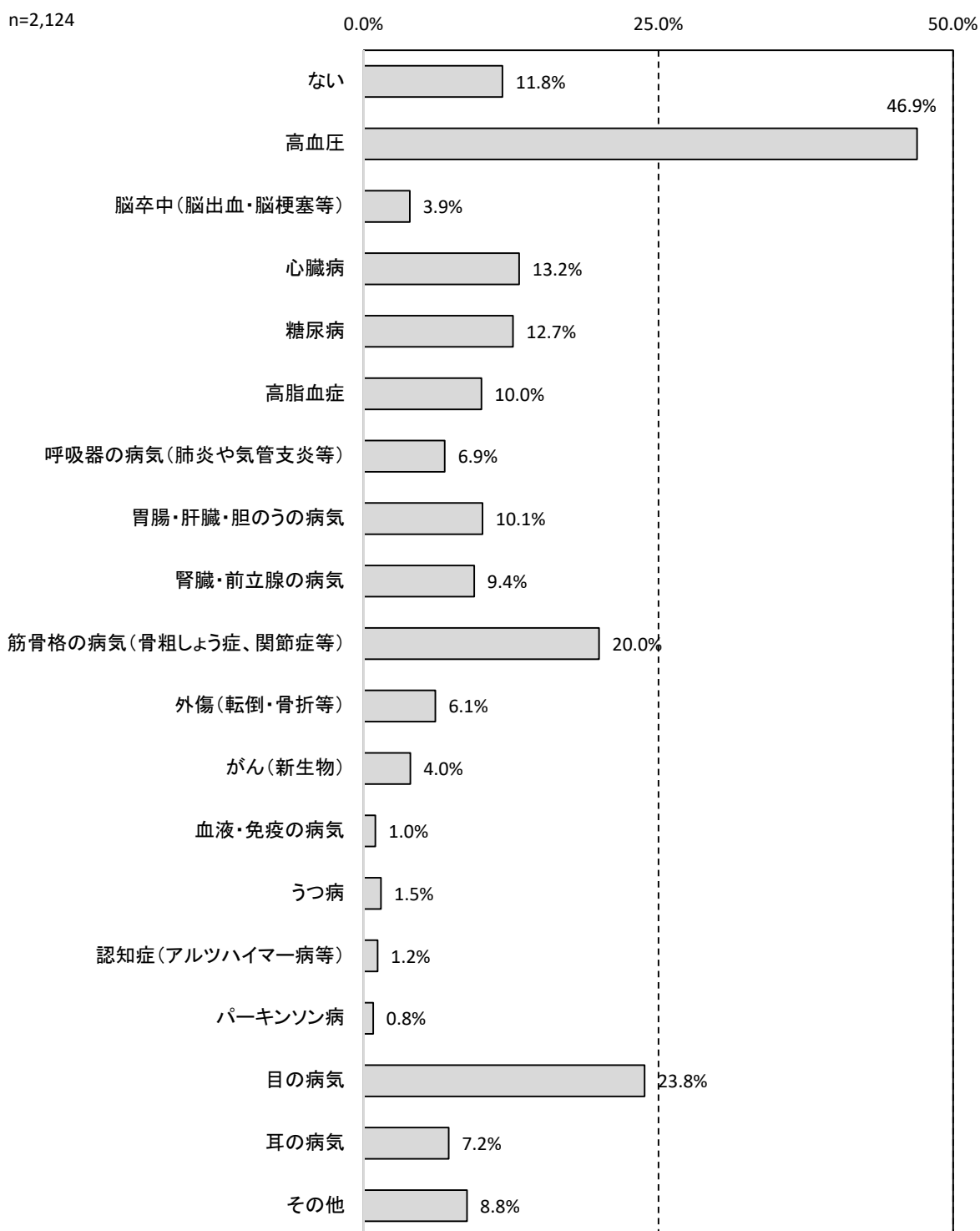
## ■ 心配事や愚痴を聞いてくれる人

性別でみても、どちらとも聞いてくれる人が多数の90%以上はいます。特に、男性は配偶者が45.1%、女性は別居の子どもが47.4%と最も高くなります。年齢階級別でみると前期高齢者と79歳までは配偶者が最も高く、年齢が上がると親戚と子どもが高くなります。認定状況でみても、一般高齢者は高齢者が最も高く、要支援の方は別居の子どもが最も高くなります。

区分	n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答	〔該当割合〕	
全体	2,124	45.1%	25.4%	38.7%	38.9%	15.4%	37.3%	2.4%	2.9%	3.9%	93.3%	
男性	840	61.5%	21.1%	25.5%	28.5%	8.1%	25.8%	2.1%	4.0%	5.4%	90.6%	
女性	1,284	34.3%	28.3%	47.4%	45.8%	20.2%	44.8%	2.6%	2.1%	2.9%	95.0%	
年齢階級別	65～69歳	565	59.5%	21.8%	35.2%	41.8%	15.6%	49.2%	3.2%	2.5%	1.8%	95.8%
	70～74歳	398	57.5%	18.3%	38.9%	40.7%	17.6%	44.5%	2.3%	3.0%	4.0%	93.0%
	75～79歳	419	45.8%	24.6%	35.8%	41.3%	14.3%	36.8%	2.6%	2.1%	5.0%	92.8%
	80～84歳	384	34.4%	27.9%	39.8%	34.9%	18.0%	29.7%	1.3%	3.6%	5.7%	90.6%
	85～89歳	264	20.1%	37.5%	47.0%	34.8%	12.5%	22.0%	2.3%	3.4%	3.0%	93.6%
	90～94歳	89	15.7%	36.0%	42.7%	33.7%	7.9%	11.2%	2.2%	3.4%	5.6%	91.0%
	95歳以上	5	20.0%	60.0%	80.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
島原市	森岳地区	128	46.1%	19.5%	42.2%	28.9%	13.3%	33.6%	4.7%	5.5%	1.6%	93.0%
	霊丘地区	113	48.7%	14.2%	38.9%	33.6%	11.5%	35.4%	2.7%	0.9%	6.2%	92.9%
	白山地区	141	49.6%	19.9%	36.9%	39.7%	12.8%	37.6%	3.5%	2.1%	6.4%	91.5%
	杉谷地区	55	52.7%	32.7%	45.5%	49.1%	12.7%	50.9%	1.8%	3.6%	0.0%	96.4%
	安中地区	97	44.3%	18.6%	36.1%	40.2%	16.5%	36.1%	2.1%	2.1%	5.2%	92.8%
	三会地区	58	44.8%	22.4%	41.4%	43.1%	19.0%	37.9%	6.9%	1.7%	5.2%	93.1%
	有明地区	148	41.2%	37.8%	40.5%	40.5%	18.2%	34.5%	2.0%	4.1%	2.0%	93.9%
雲仙市	国見町	163	47.2%	30.7%	31.9%	38.7%	11.0%	33.7%	1.2%	4.9%	5.5%	89.6%
	瑞穂町	75	49.3%	29.3%	38.7%	24.0%	18.7%	37.3%	2.7%	1.3%	1.3%	97.3%
	吾妻町	94	40.4%	26.6%	37.2%	46.8%	16.0%	29.8%	2.1%	1.1%	5.3%	93.6%
	愛野町	60	40.0%	21.7%	40.0%	40.0%	18.3%	43.3%	1.7%	5.0%	5.0%	90.0%
	千々石町	77	45.5%	20.8%	40.3%	32.5%	18.2%	36.4%	1.3%	3.9%	2.6%	93.5%
	小浜町	143	42.0%	23.8%	48.3%	37.1%	24.5%	39.2%	2.8%	3.5%	0.7%	95.8%
	南串山町	64	42.2%	29.7%	31.3%	39.1%	12.5%	31.3%	3.1%	0.0%	7.8%	92.2%
南島原市	加津佐町	125	48.8%	26.4%	36.8%	40.8%	9.6%	40.8%	0.8%	0.0%	3.2%	96.8%
	口之津町	114	48.2%	15.8%	45.6%	45.6%	18.4%	43.9%	2.6%	0.9%	1.8%	97.4%
	南有馬町	92	44.6%	28.3%	35.9%	38.0%	13.0%	35.9%	5.4%	5.4%	5.4%	89.1%
	北有馬町	52	32.7%	34.6%	38.5%	46.2%	23.1%	46.2%	1.9%	1.9%	5.8%	92.3%
	西有家町	90	42.2%	18.9%	35.6%	40.0%	10.0%	37.8%	1.1%	1.1%	6.7%	92.2%
	有家町	94	39.4%	31.9%	28.7%	36.2%	20.2%	36.2%	1.1%	5.3%	3.2%	91.5%
	布津町	58	37.9%	22.4%	36.2%	44.8%	19.0%	37.9%	0.0%	6.9%	3.4%	89.7%
	深江町	83	54.2%	38.6%	45.8%	42.2%	9.6%	37.3%	1.2%	1.2%	2.4%	96.4%
認定状況	一般高齢者	1,680	51.3%	24.5%	37.8%	39.5%	15.5%	40.4%	2.5%	2.6%	3.6%	93.9%
	要支援1	188	20.7%	24.5%	42.0%	39.9%	17.0%	31.9%	0.5%	4.3%	5.3%	90.4%
	要支援2	256	22.3%	32.4%	42.6%	34.4%	13.7%	20.7%	3.1%	3.9%	4.7%	91.4%

■ 現在治療中、または後遺症のある病気

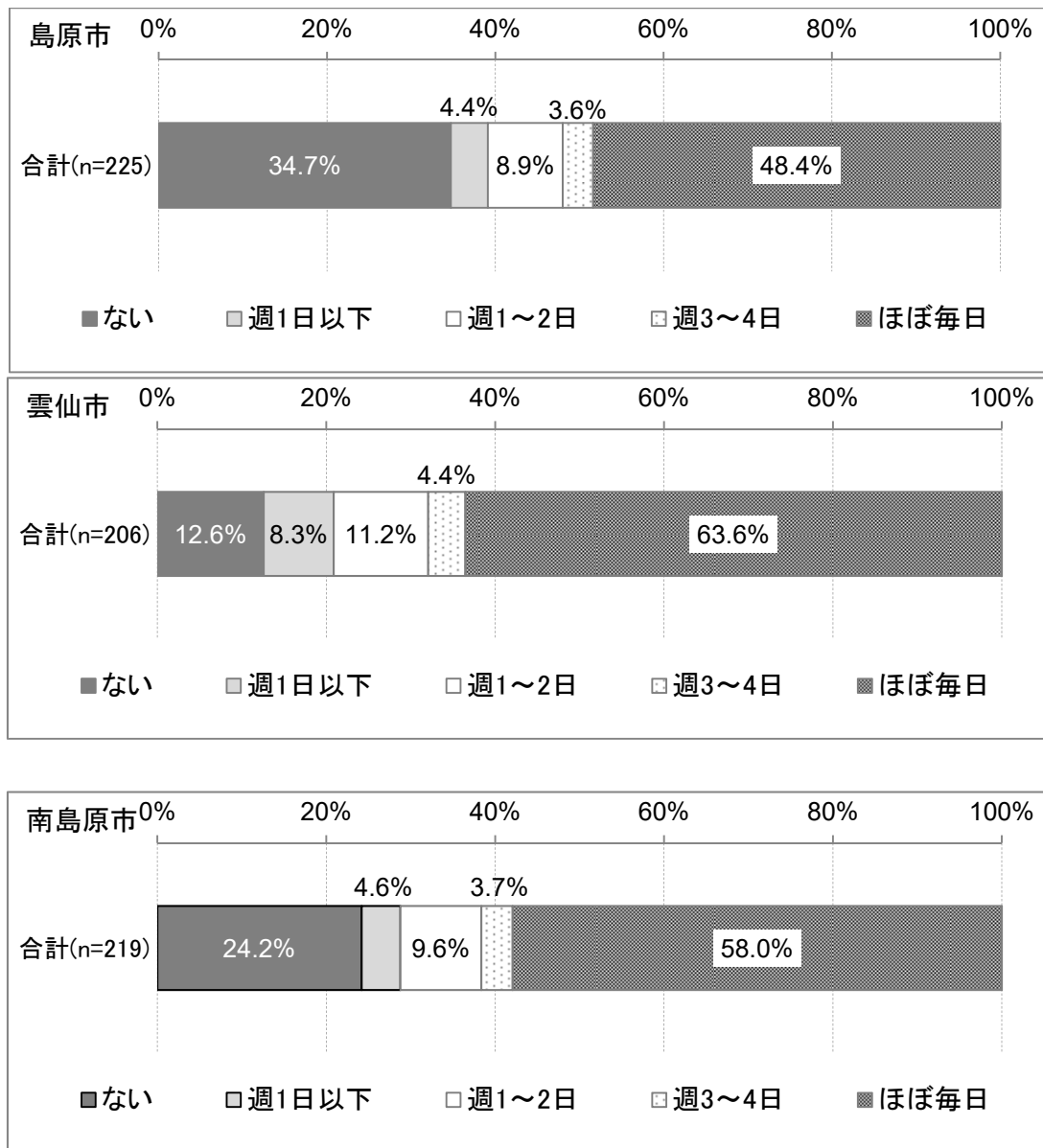
「高血圧」が46.9%で最も多く、次いで、「目の病気」が23.8%、「筋骨格の病気（肺炎や気管支炎等）」が20.0%の順となっています。



### (3) 在宅介護実態調査

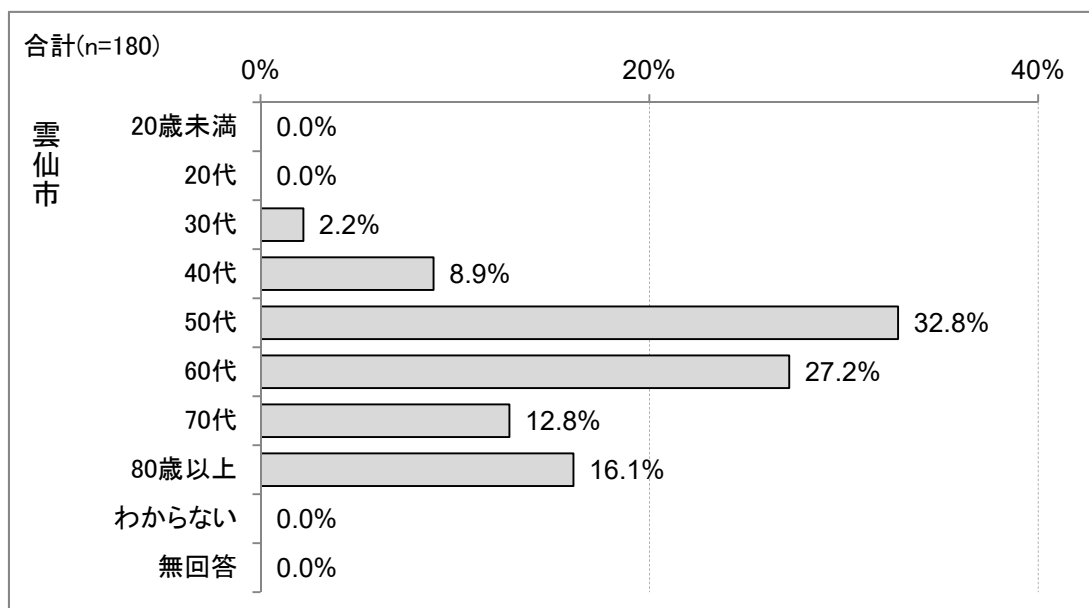
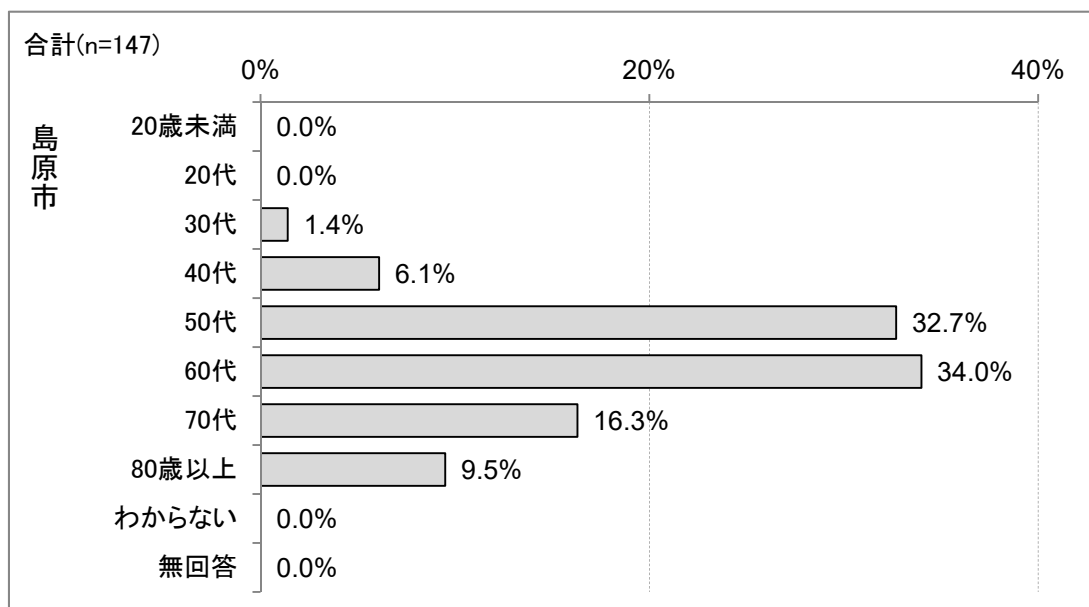
#### ■ 家族等による介護の頻度

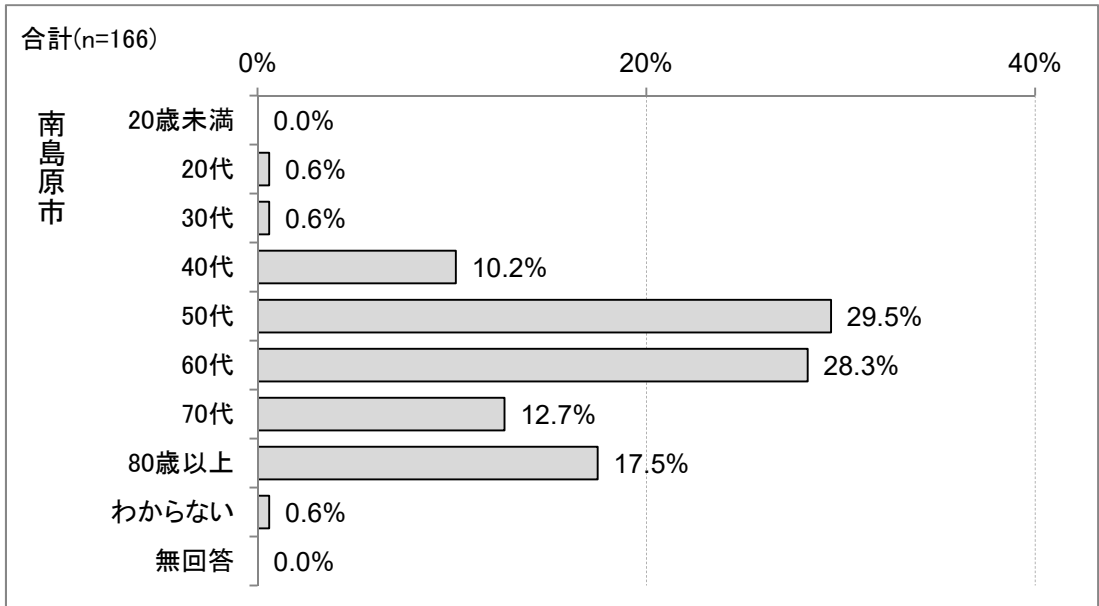
家族等による介護の頻度について、島原市は、雲仙市と南島原市と比べ「ない」の割合が高く、「ほぼ毎日」は低くなっている。



■ 主な介護者の年齢

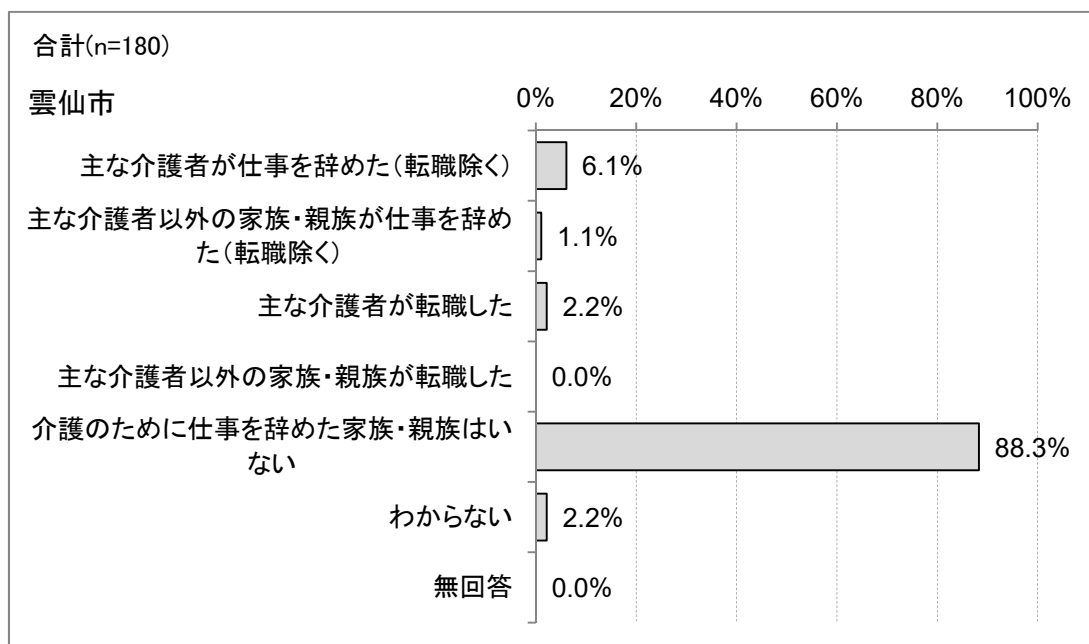
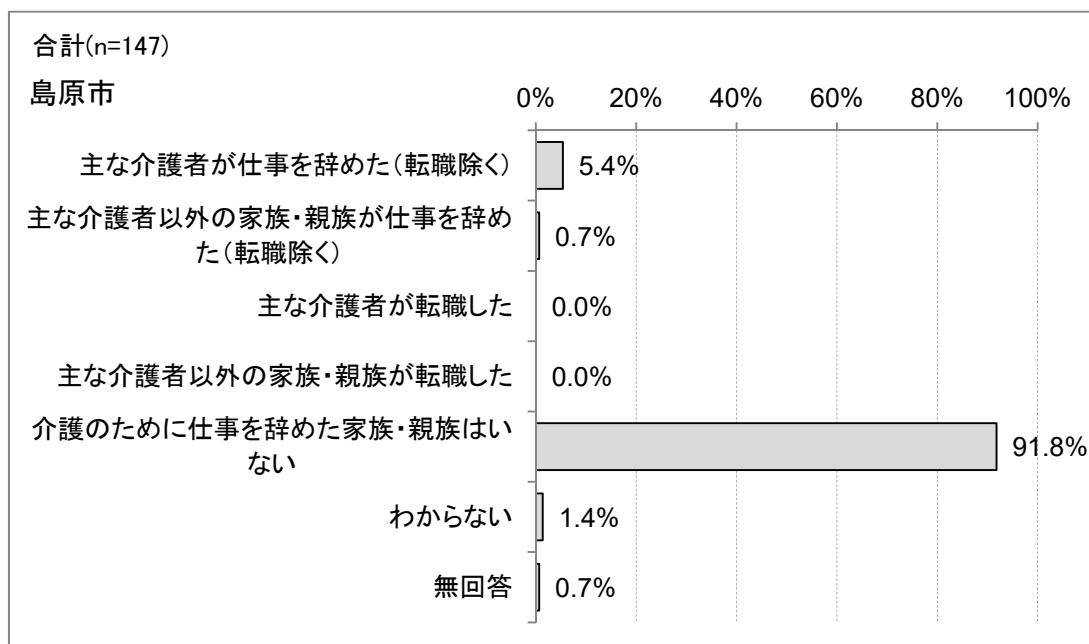
3市とも「50代」、「60代」の割合が高い、雲仙市及び南島原市においては、「50代」、「60代」に次いで「80代以上」の割合が高い。

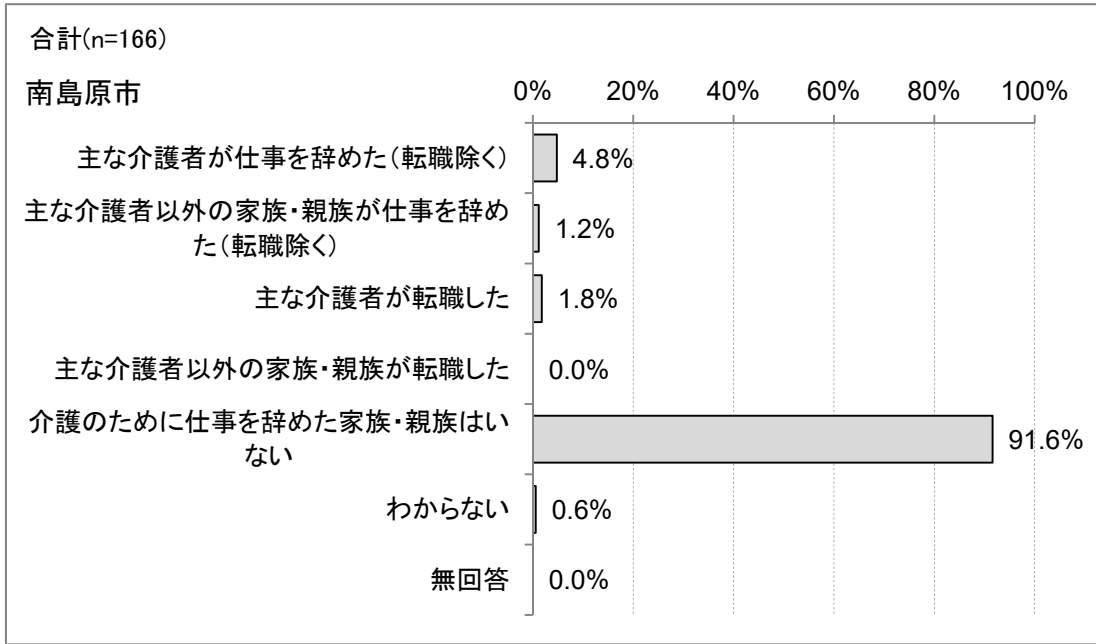




■ 介護のための離職の有無

3市とも「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が次に高くなっている。

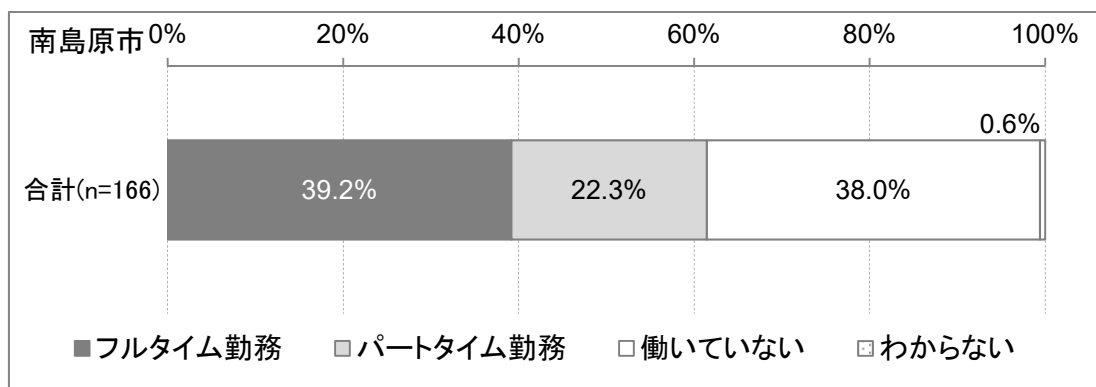
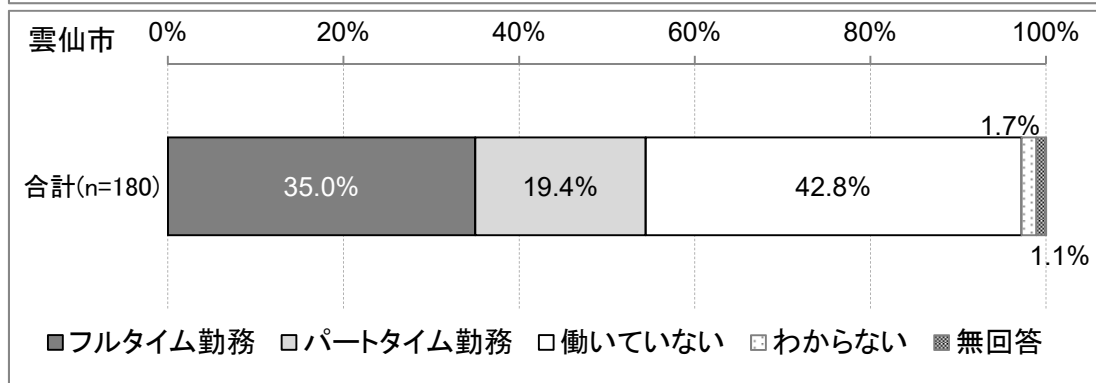
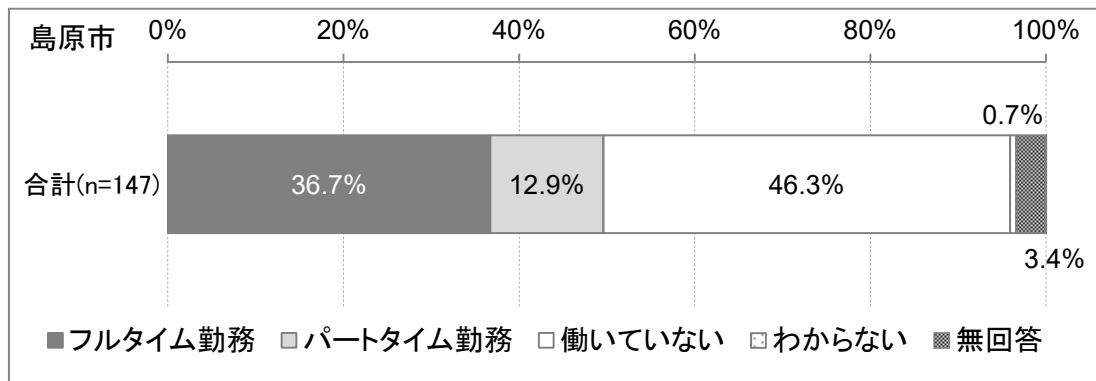






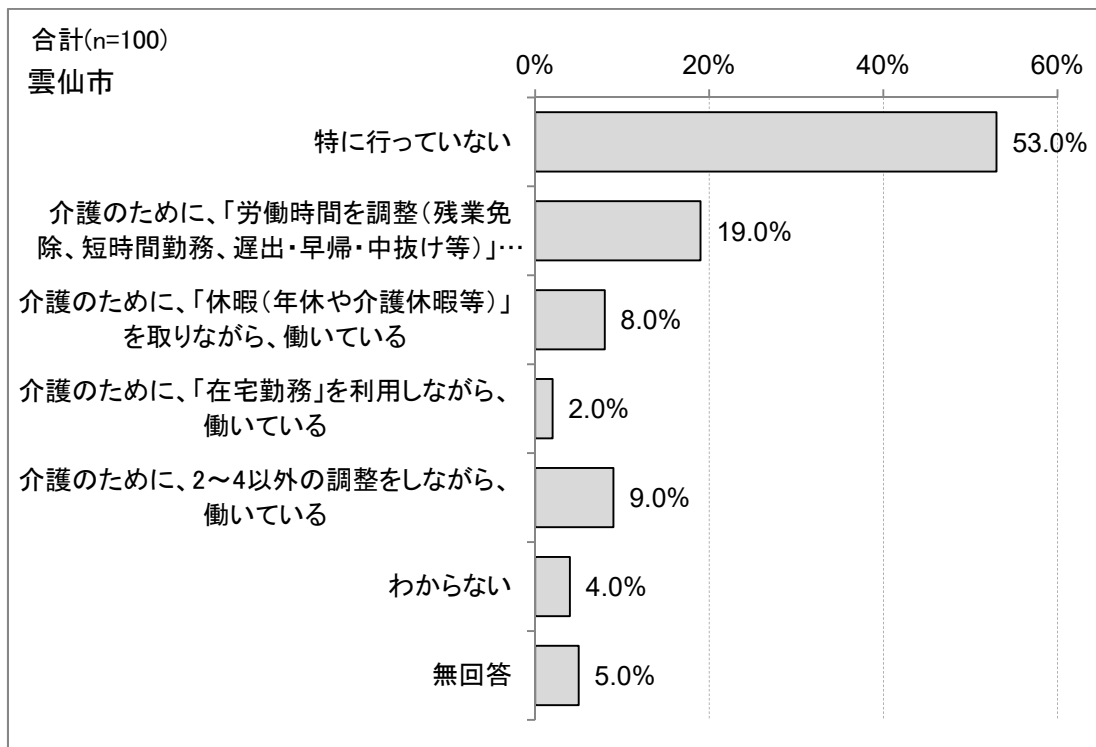
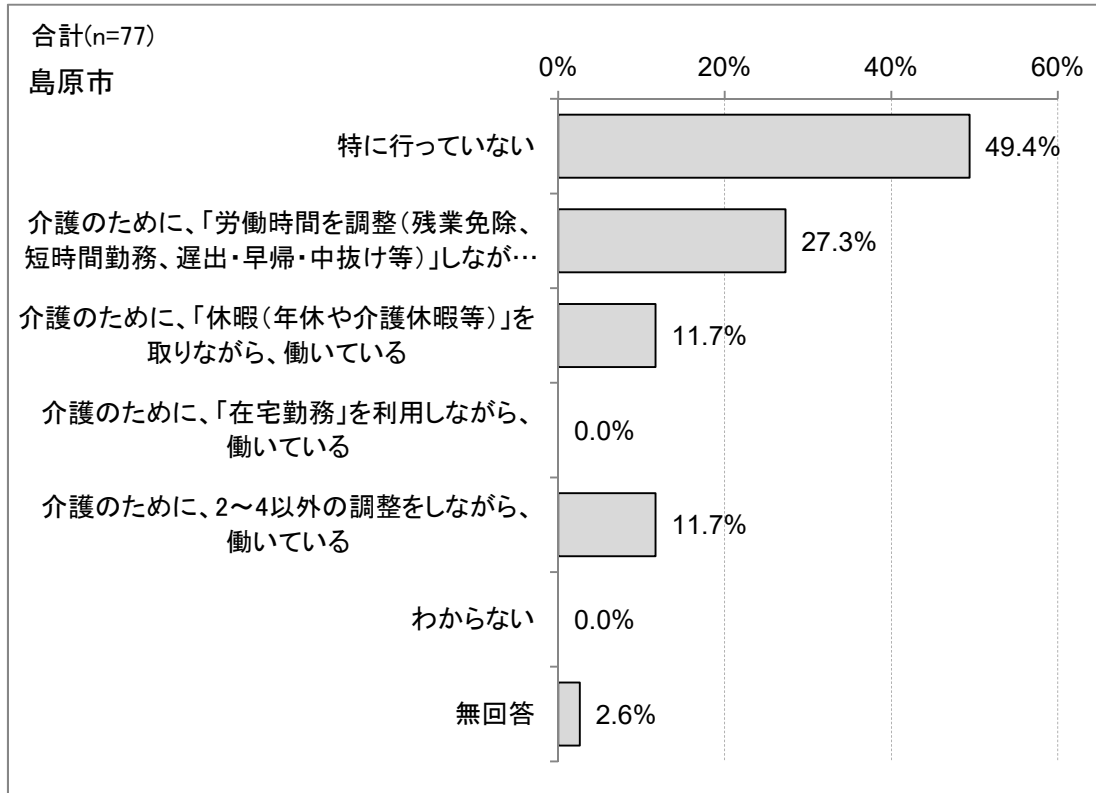
■ 主な介護者の勤務形態

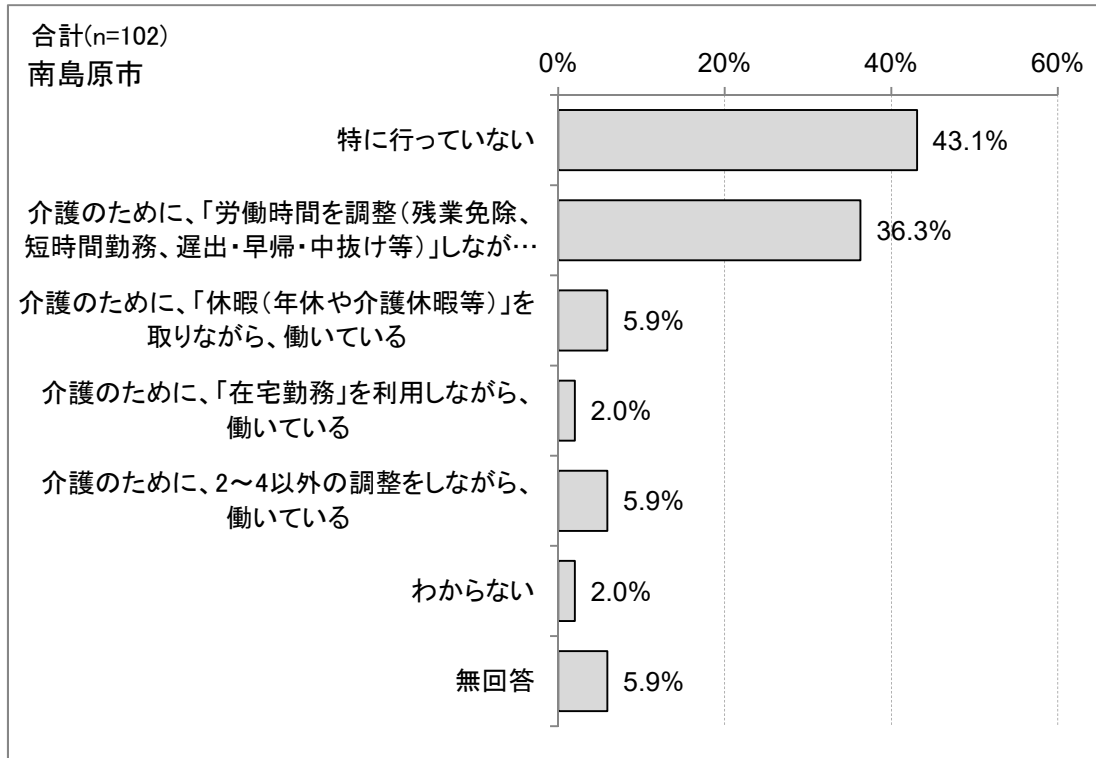
島原市及び雲仙市については、「働いていない」の割合が最も高く、南島原市については、「フルタイム勤務」が最も高い。「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」を合わせると、雲仙市と南島原市においては半数以上を占めている。



■ 主な介護者の働き方の調整状況

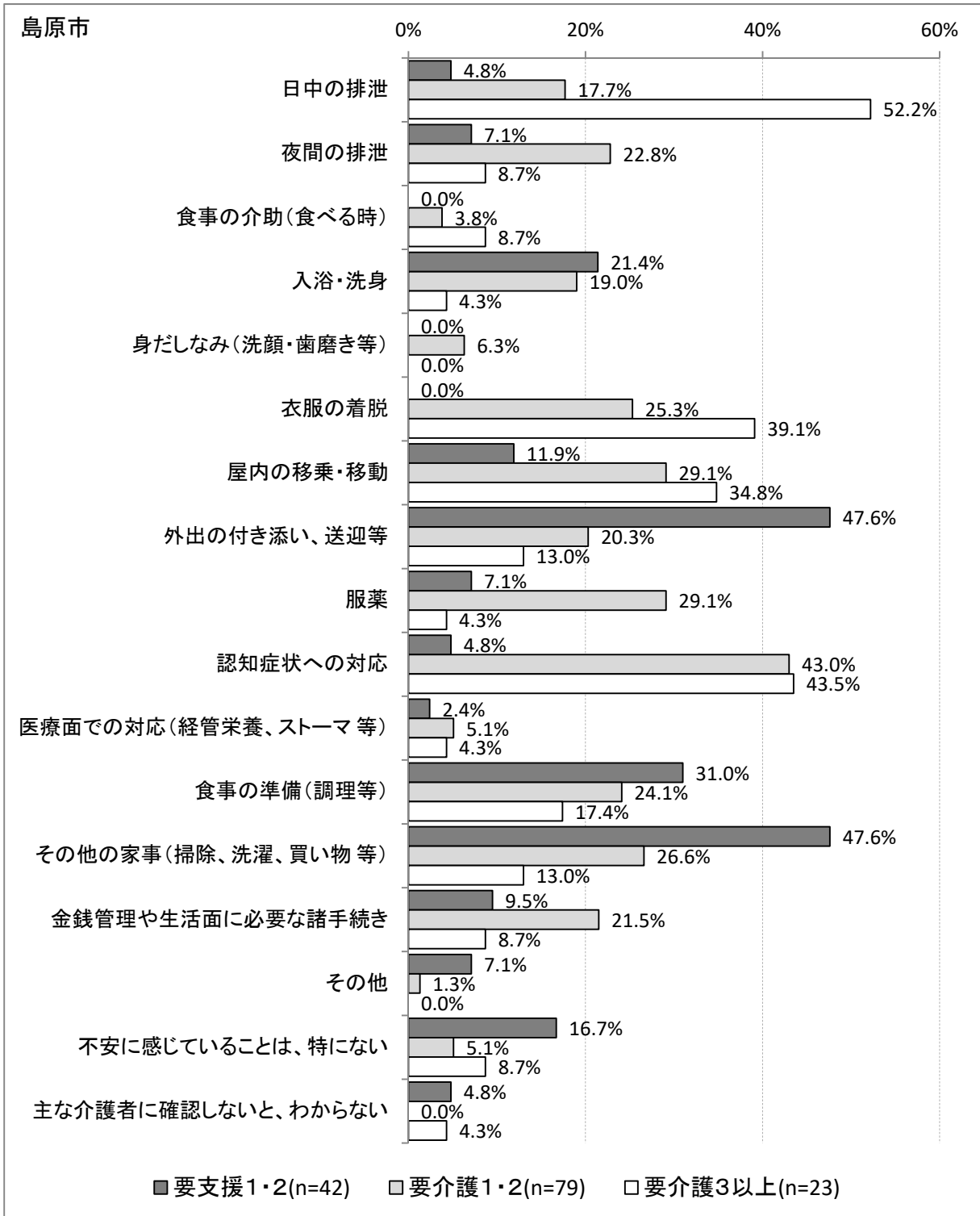
働き方についての調整等は、3市とも「特に行っていない」の割合が最も高い。南島原市においては、島原市・雲仙市と比べ「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が36.3%と高い。



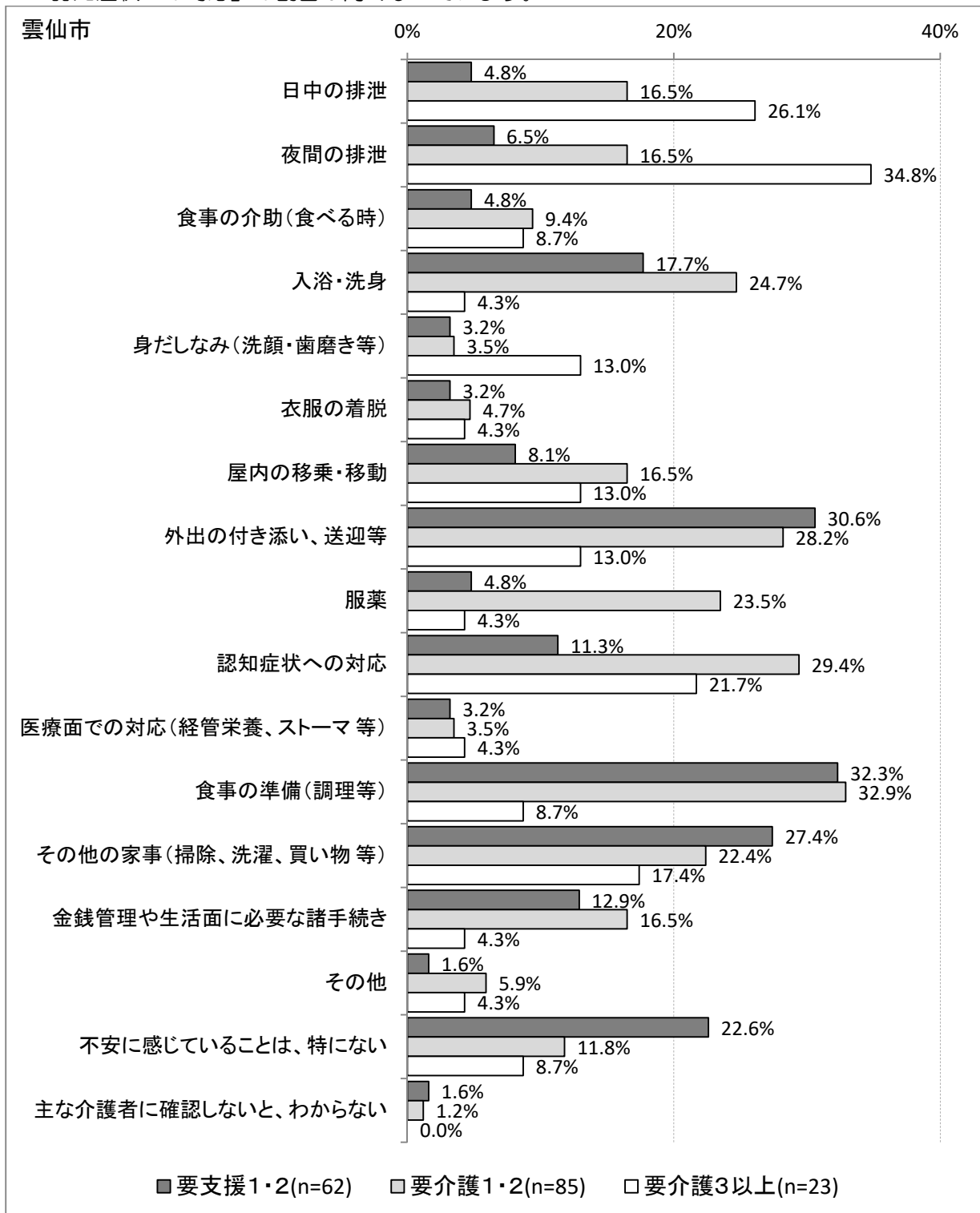


## ■ 主な介護者が不安に感じる介護

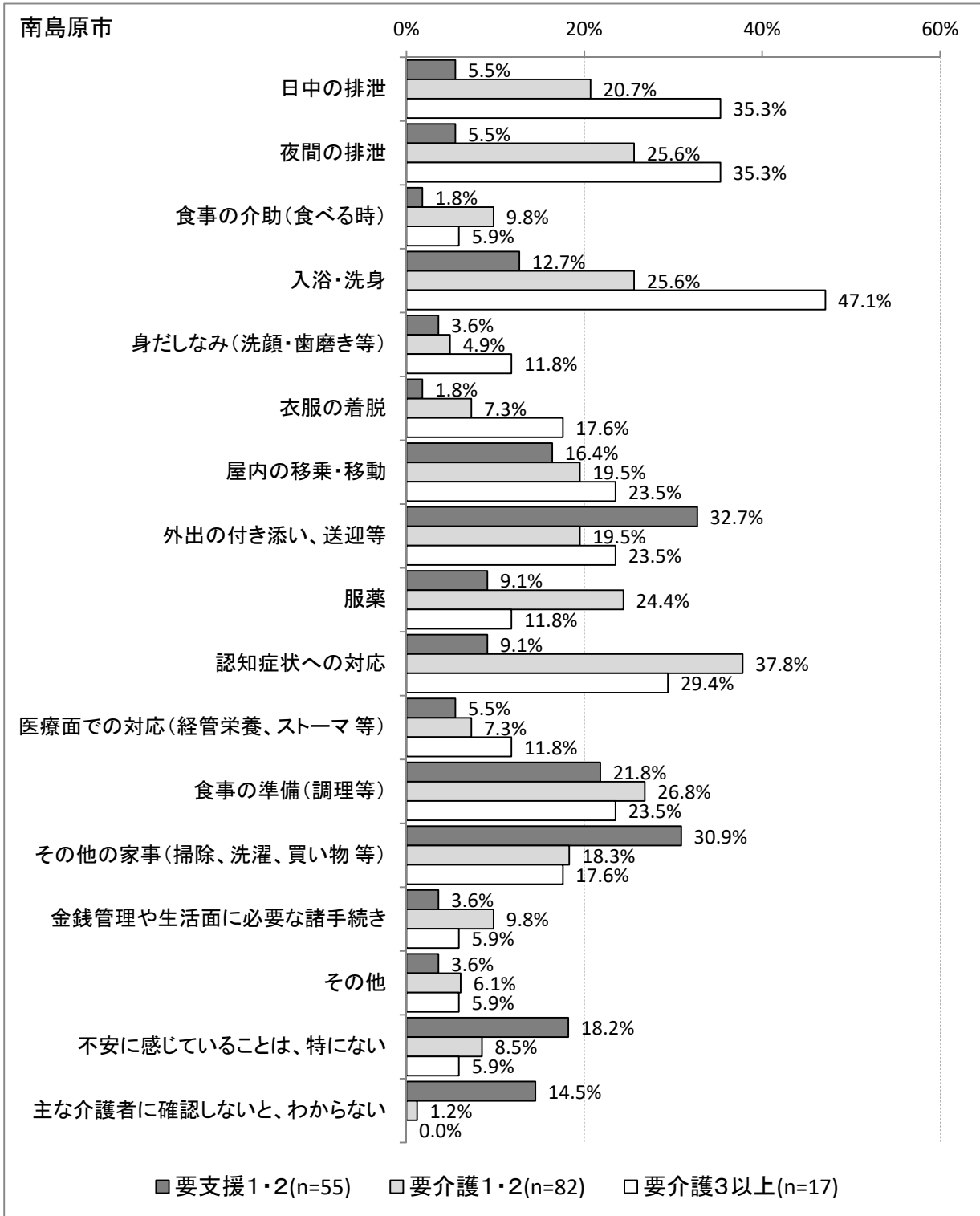
島原市は、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」が、要介護1・2では「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」、「服薬」が、要介護3以上では、「日中の排泄」、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」の割合が高くなっています。



雲仙市は、要支援1・2では「食事の準備（調理等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が、要介護1・2では「食事の準備（調理等）」、「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」が、要介護3以上では、「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「認知症状への対応」の割合が高くなっています。



南島原市は、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」が、要介護1・2では「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が、要介護3以上では、「入浴・洗身」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」の割合が高くなっています。



## 4 認知症日常生活自立度の現状

認知症高齢者の日常生活自立度とは、高齢者の認知症の程度を踏まえた日常生活自立度の程度を表すもので、適切な対応がとれるよう、医師より認知症と診断された高齢者の日常生活自立度を客観的かつ短時間に判断することを目的として用いられます。

また、「Ⅱa ランク」以上は、介護を必要とする程度の認知症と判定されます。平成 27 年度末では 5,424 人だったのが、平成 28 年度末では 5,713 人となり 289 人増加しています。今後、団塊の世代が後期高齢者となるにつれ、認知症高齢者は増加するといわれています。

■平成 27 年度末の要介護（要支援）認定者の構成市別認知症日常生活自立度（2 号被保険者含む）（単位：人）

	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	自立	総計
島原市	770	462	477	322	152	268	71	868	3,390
雲仙市	786	403	513	344	133	218	48	926	3,371
南島原市	978	582	613	379	174	205	60	1,130	4,121
総計	2,534	1,447	1,603	1,045	459	691	179	2,924	10,882

■平成 28 年度末の要介護（要支援）認定者の構成市別認知症日常生活自立度（2 号被保険者含む）（単位：人）

	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	自立	総計
島原市	731	494	481	387	151	232	62	840	3,378
雲仙市	682	374	576	372	151	230	41	926	3,352
南島原市	911	584	665	439	194	215	65	1,051	4,124
総計	2,324	1,452	1,722	1,198	496	677	168	2,817	10,854

(参考) 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判定基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする
M	著しい精神症状や問題行動（周辺症状）あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする